映画美学校
アクターズ・コース

映画・演劇を横断し活躍する
俳優養成講座2021

～演技を通じた新しいクリエイター創出を目的とする～

募集要綱

2021

文化庁委託事業「令和3年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」
主催：文化庁、特定非営利活動法人映画美学校　制作：特定非営利活動法人映画美学校　協力：青年団

映画美学校アクターズ・コースの開講にあたって

映画美学校は、1997 年の「映画技術美学講座」（映画美学校の前身）以来、実践的な映画教育を行うとともに、ふたつの交流を大切にしてまいりました。そのひとつは国際交流であり、もうひとつは他ジャンルの表現領域との交流です。この度、映画とかかわりの深い芸術ジャンルである演劇との交流を、人材育成を通じてはかるべく映画美学校アクターズ・コースを開講いたします。

シネマ・ダールや 1920 年代のロシア映画、アクターズ・スタジオを例に挙げるまでもなく、映画と演劇は歴史的にみても不可分の関係を築いてまいりました。21 世紀に入り早くも 10 年が経過した現在、メディアの多様化は一層加速しつつあります。その中で「映画的演技とは何か」「演劇的演技とは何か」「テレビ的演技とは何か」が、演出する側にも、演ずる側にも一層問われているのではないでしょうか。

映画美学校アクターズ・コースの構想が生まれたのは、映画美学校が国際交流企画として 2008 年 9 月に実施したフランスの映画作家ジャック・ドワイヨン監督による特別講義です。その講義の中でドワイヨン監督は映画学校における俳優コースの必要性について一言触れられました。自らの映画に素人俳優を起用しながら、俳優コースの必要性を説かれたドワイヨン監督の問題提起を私たちなりに受け止めた結果が、今回の開講にいたりました。

映画美学校のアクターズ・コースは、インディペンデントな俳優の養成を目指します。ここで言うインディペンデントとは、多様なメディアと様々な演出意図に柔軟に対応できる身体能力と技術を意味しています。そして、多彩な講師陣による実習を中心としたカリキュラムは、ひとりひとりの受講生がその能力を身につけ俳優として第一歩を踏み出す貴重な機会になるものと確信いたします。

映画美学校アクターズ・コースの開講が、フィクション・コースやドキュメンタリー・コースと同様、日本の映画シーンを一層豊かなものにするための一助となればと願う次第です。多くの方々の受講をお待ちしています。

（2010 年 12 月 15 日）

映画美学校

アクターズ・コース講師メッセージ

映画美学校アクターズ・コースは今年で開講から 10 年目を迎えます。

私たちは俳優が俳優に技術と知識、その経験を伝えること、そして俳優自身も創作に関わり主体性を養うことを掲げ、これまで多くの若い俳優たちとともに学んできました。結果、受講生たちの可能性は私たち講師陣の思惑をはるかに越えて、彼ら彼女らは自立し活躍の場を広げていきました。しかし、学校に通い修了すれば俳優として悩みがなくなるなんてことはありません。例えプロとして活躍する俳優や映画監督もいつだって悩みに悩みながら創作に向き合っています。それは、演じるということ、創るということは、生活の糧を稼ぐための仕事であるだけではなく、世界を知るための手段であるからです。世界が複雑である限り、演じるという表現も無限に複雑であり続けます。ぜひ、アクターズ・コースで私たちと一緒に演じることの不思議を探究していきましょう。

アクターズ・コース講師一同

俳優養成講座 2021　カリキュラム、講師プロフィール

※講義は原則平日の 13：30～17：00 を予定しています（ただし撮影や修了公演稽古などは土日祝日などもあり）。

□俳優の権利と危機管理

担当講師：兵藤公美（俳優／青年団）、深田晃司（映画監督）

今、俳優の仕事は多岐に渡っています。映画、ドラマ、広告、演劇、ナレーション……。事務所に所属している俳優も、フリーで活動している俳優も、最終的には自分の身体と心をさらけだして、ある作品世界の創造に寄与していきます。だからこそ、その仕事の過程、表現の領域で起きる種々のトラブルは、俳優にとってダイレクトに心身を傷つけかねないリスクを負っています。自立した俳優としてその仕事を長く楽しく継続していくために必要な知見をシェアしていきます。

深田晃司

1980 年生まれ。大学在学中に映画美学校フィクション・コース第 3 期に入学。長短編 3 本の自主制作を経て、2006 年『ざくろ屋敷』を発表。08 年長編『東京人間喜劇』を発表。同作はローマ国際映画祭、パリシネマ国際映画祭に選出、シネドライヴ2010 大賞受賞。10 年『歓待』で東京国際映画祭「ある視点」部門作品賞受賞。13 年『ほとりの朔子』でナント三大陸映画祭グランプリを受賞。同年三重県いなべ市にて地域発信映画『いなべ』を監督した。05 年より現代口語演劇を掲げる劇団青年団の演出部に所属しながら、映画制作を継続している。『淵に立つ』（16）は第 69 回カンヌ国際映画祭ある視点部門にて審査員賞を受賞。近作として『海を駆ける』（18）『よこがお』（19）など。最新作『本気のしるし〈劇場版〉』（20）はカンヌ国際映画祭オフィシャルセレクション 2020 に選ばれるがコロナ禍により開催中止となる。

兵藤公美

横浜市出身。桐朋学園大学芸術科演劇専攻、専攻科卒。洗足学園音楽大学講師。1996 年平田オリザ主宰劇団青年団入団、現在在籍。青年団に出演の他、Q『バッコスの信女 - ホルスタインの雌』（20/ 作・演出：市原佐都子 ）などに参加。映画出演作として『あおげば尊し』（06/ 市川準）『このすばらしきせかい』（06/ 沖田修一）『東京人間喜劇』（08/ 深田晃司）『歓待』（10/ 深田晃司）『SHARING』（14/ 篠崎誠）『ふきげんな過去』（16/ 前田司郎）『共想』（18/ 篠崎誠 ）『哀愁しんでれら』（21/ 渡部亮平 ）『子供はわかってあげない』（21/ 沖田修一 ）などがある。

＜ゲスト講師＞

森崎めぐみ（俳優・全国芸能従事者労災保険センター理事長）

映画『人間交差点・不良』（93/ 高橋伴明）で主演デビュー後、黒沢清、中原俊などの監督作品に主演。TV「暴れん坊将軍」「相棒」など多数出演し、舞台『必殺仕事人』に主演。代表作に国際ゆうばり映画祭ファンタランド大賞受賞作、ドーヴィルアジア国際映画祭・ドイツマンハイム国際映画祭正式出品『CHARON』カロン役主演。芸能従事者のための社会保障を厚生労働省に働きかけ、特別加入労災保険法を芸能従事者適用に改正した。

□演技レッスン

担当講師：近藤強（俳優／青年団）

「動くんじゃなくて、何かに動かされる演技？」

シアターゲームなどを交えながら、ビューポイント（Viewpoints）という演技トレーニング方法を紹介します。ビューポイントでは、演技を時間的要素（長さ、テンポ、反応、繰り返し）と空間的要素（関係性、身体、ジェスチャー、建築など）に分けて考えます。全 10 回の講義を通してこれらの要素1つ1つについてじっくりと学びます。演技をする時に相手役、台詞、周りの環境（相手との距離や空間自体）など、周りにある様々なヒントに動かされて演技出来る身体作りを目指します。

1971 年生まれ。愛知県出身。三重大学人文学部卒業後に渡米、ネイバーフッドプレイハウス修了。2007 年に帰国し、青年団に入団。レトル所属。青年団以外にはウンゲツィーファ、玉田企画、犬飼勝哉などにも出演。映画：『ミッドナイトスワン』（20/ 内田英治）「あの日々の話」（18/ 玉田真也）『ジェファソンの東』（18/ 深田晃司）など。俳優活動以外には、舞台通訳、企業研修ファシリテーターとしても活動。

担当講師：兵藤公美

「俳優が魅力的にみえる瞬間とはどういう姿なのでしょうか」

目に見える特徴を表現すること、別人に見えるよう工夫することでしょうか？俳優はどのように考えて、演技すればいいのでしょうか。演劇の仕組みを日常生活に当てはめながら俳優の作業を探っていきましょう。

□座学と創作 / 演技について考える

担当講師：深田晃司

映画にとっていい俳優とは、カメラの魅力的な被写体であることかもしれません。しかし、魅力的な被写体というだけであれば、監督にとってそれは、素人でもいいし、それこそ水でも火でも風に揺れる木々でも構わない。優れた俳優にしかできないこと、それは俳優自身が脚本を、作品を主体的に解釈し考えることのできる被写体になるということです。このプログラムでは、簡単な創作と、それを参加者自身が演じ撮影することで、カメラと俳優の撮る / 撮られる関係性を再確認していきたいと思います。

□短編映画制作実習

担当講師：竹内里紗（映画監督）、宮崎大祐（映画監督）、他1名を予定

一般的な映画制作において俳優が実際に参加することになるのは往々にして撮影現場だけです。しかし、実際の撮影の前後（準備や仕上げ）にも、俳優が映画や演技について理解を深めるきっかけが溢れているように思います。本実習では撮影準備から編集作業までを俳優と制作者が共同で行い、撮影現場の外にも広がっている映画のさまざまな可能性を発見し学ぶことを目指します。

竹内里紗

1991 年生まれ。神奈川県出身。立教大学・映画美学校にて万田邦敏監督に師事し、東京藝術大学大学院映像研究科を卒業。主な監督作に、『みちていく』（14）『みつこと宇宙こぶ』（18）『21 世紀の女の子 / Mirror』（19）ANA オリジナルショートムービー『再見』（20）などがある。

宮崎大祐

大学卒業後、映画美学校を経て、フリーの助監督、脚本家として活動。2011 年に初の長編『夜が終わる場所』を監督。18 年には『大和（カリフォルニア）』、19 年には『TOURISM』が公開された。最新作は大阪を舞台にしたデジタル・スリラー『VIDEOPHOBIA』（20）。

□オンライン集団創作

担当講師：松井周（劇作家・演出家・俳優／サンプル主宰）

コースの垣根を越えて、オンラインであること、リアルタイムであることを条件にフィクション作品をつくってみませんか？ 5〜6 人のグループに分かれて 10 分程度の作品をつくります。オンライン上で、台本をつくり、稽古したうえで、フィクションを成立させ、上演／発表します。コロナ禍において集団創作にどのように取り組むかを考えながら、演劇でも映画でもあるような新奇なジャンル？の作品づくりに挑戦できたらと思います。
※この実習は他コースの受講生も参加できるオープンゼミとなります。

1972 年生東京都出身。96 年劇団「青年団」に俳優として入団後、作家・演出家としても活動を開始する。07 年『カロリーの消費』より劇団「サンプル」を旗揚げ、青年団から独立。バラバラの自分だけの地図を持って彷徨する人間たちを描きながら、現実と虚構、モノとヒト、男性と女性、俳優と観客、などあらゆる関係の境界線を疑い、踏み越え、混ぜ合わせることを試みている。近作に『変半身（かわりみ）』（共同原案：村田沙耶香）、『ビビを見た！』（原作：大海赫）、『神の末っ子アネモネ』（演出：キム・ジョン）、『てにあまる』（演出：柄本明）など。11 年『自慢の息子』で第 55 回岸田國士戯曲賞を受賞。

□演劇のバグ技

担当講師：本橋龍（劇作家・演出家／ウンゲツィーファ主宰）

演劇はここにあるものを別の何かに見立てることが基本なわけですが、それによる現実との齟齬を「バグ」だとして、つまり「バグ技」はそれを利用することです。バグ技があれば私たちは手の届かない地点に今この瞬間から辿り着けるかもしれません。この講義では一緒にバグを見つけてバグ技を編み出す作業ができたらと思っています。

1990 年生まれ。さいたま市出身。高校の頃銀杏 BOYZ を聞いた瞬間から「自分は何かを成し遂げられる」と信じて疑わない。同時期に部活にて演劇を始め、唯一自分ができることと判断し現在まで続ける。09 年、尚美学園大学に入学。若林一男教授の下演劇を学ぶ。13 年に大学を中退。実家から家出し、そこから自身の創作ユニット「栗☆兎ズ」で劇作活動を本格的に始める。16 年、江古田に居住し活動の拠点である「栗☆兎ズ荘」（木造二階建ての一軒家。後のウンゲ荘）を構える。17 年、8 回目の公演『蛇の足がき』をライターの九龍ジョー氏が絶賛。同年ユニット名を「ウンゲツィーファ」に改名。18 年、上演作品『動く物』が平成 29 年度北海道戯曲賞にて大賞を受賞。

□アクターズ・ラボ

担当講師：兵藤公美

毎回多彩なゲスト講師を招いてその生き方や知見を解きほぐしながら共有していきます。ゲストには俳優、演出家、監督だけではなくプロデューサーや翻訳家なども予定。演じることだけではない、俳優としての世界の見え方を広げていきます。

＜ゲスト講師＞

菅原直樹（俳優・介護福祉士 /「老いと演劇」OiBokkeShi 主宰）

劇団での俳優活動と特別養護老人ホームでの仕事を並行してきた経験から、介護と演劇の相性の良さを実感。2012 年より認知症ケアに演劇手法を活かした「老いと演劇のワークショップ」を全国各地で展開。14 年に「老いと演劇」OiBokkeShi を設立し演劇作品の創作活動を開始する。OiBokkeShi の活動を密着取材したドキュメンタリー番組「よみちにひはくれない～若き“俳優介護士”の挑戦～」（OHK）が第 24 回 FNS ドキュメンタリー大賞で優秀賞を受賞。19 年芸術選奨文部科学大臣賞新人賞を受賞。

竹中香子（俳優）

1987 年生まれ、埼玉県出身。11 年桜美林大学総合文化学群演劇専修卒業後、渡仏。13 年日本人としてはじめてフランスの国立高等演劇学校の俳優セクションに合格し 16 年フランス俳優国家資格を取得。パリに拠点を戻し、フランス国公立劇場の作品を中心に多数の舞台に出演。Guillaume Vincent 演出作品に多く出演する。第 72 回アヴィニョン演劇祭、公式プログラム（IN）作品出演。17 年より日本での活動も再開。一人芝居『妖精の問題』（作・演出：市原佐都子）では、ニューヨーク公演を果たす。日本では、さまざまな大学で、自身の活動に関する特別講義を行う。20 年よりカナダの演出家 Marie Brassard とのクリエーションをスタート。秋からは、フランス演劇教育者国家資格取得のための 20 年度研修クラスに参加し、演劇公演と並行し、演劇教育を学ぶ。

松村翔子（劇作家・演出家／モメラス主宰）

1984 年 7 月 14 日生まれ。神奈川県横浜市出身。モメラス主宰・劇作・演出。メーテルリンク作『青い鳥』で利賀演劇人コンクール 2017 優秀演出家賞及び観客賞受賞。『こしらえる』が第 62 回岸田國士戯曲賞最終候補、『反復と循環に付随するぼんやりの冒険』が第 63 回岸田國士戯曲賞最終候補にノミネート。『28 時 01 分』がかながわ短編演劇アワード 2020 グランプリ受賞。

他 2 名を予定。

□フィクション・コースを知る

担当講師：竹内里紗

フィクション・コース生の作品を上映し、監督や出演者を招いて作品について話し合うという講義です。映画制作者と俳優はオファーする／されるという関係から始まることも多いですが、両コースが併設されている映画美学校の特色を生かして、まずは作品を観て話す場を作ることでお互いの存在を知り合うところからはじめてみるということをしてみたいと思っています。作品作りをする人たちとコースを越えて出会うことで、お互いに刺激を得ながら学びを深めていく仲間と出会うきっかけになることを目指します。

□修了公演

担当講師：島村和秀（劇作家・演出家・俳人／情熱のフラミンゴ主宰）

半年間研鑽を積んだ集大成として、新進気鋭の演出家を招いての修了公演を行います。「作れる俳優になる」ため、演じるだけでなく、自分たちで場を作り、人に届けるまでの全てを行います。

＜メッセージ＞

新型コロナウイルスによって「映画・演劇は不要不急か？」という議論が、鑑賞者だけでなく創作者の間でも行われています。これから演技を通して創作を学ぼうと考える皆さんにとって、心配の真ん中にある論争だと思います。創作の場では、誰の / どんな表現も無条件に敬意をもって受け入れられます。ゆえに、自分を正解 / 不正解の呪縛から解き放つことができます。それが現代の創作です。分断が露見した今日、社会から求められる能力は「抑圧に負けない自由な創造力」と「他者を受け入れる共生力」だと思いませんか？映画や演劇が不要不急かどうかは置いといて、創作で培われる能力は「必要緊急」。学びは希望なのです。
さあ、作りませんか。

1988 年さいたま市出身。多摩美術大学で演劇を学ぶ。15 年に演劇ユニット「情熱のフラミンゴ」を旗揚げ。以降、同劇団の脚本、演出を務める。舞台芸術は「共生」について考えるメディアであるという信念のもと、人間生活の衝突や喜びを喜劇的かつスリリングに表現。17 年第 7 回せんがわ演劇コンクール グランプリ / 脚本賞受賞。

映画・演劇を横断し活躍する俳優養成講座 2021　募集要項

●受講期間：2021年9月1日（水）～2022年3月中旬

●受講資格：18才以上でありプロの俳優を目指す人であれば学歴、経験の有無は問いません。

●募集人員：10名程度

●講義日程：原則として平日の13:30～17:00。また土日祝日に修了公演の稽古や実習などが入る予定です。
※講師のご都合により講義日程や講師に変更の可能性があります。ご了承の上お申込み下さい。

●受講料：135,000円（税込／保険料込）※一括納入が原則ですが、ご希望の方には分割払いでのお支払いもご案内をいたします。
※年間受講料の分割払いでのお支払いにつきまして
総額135,000円（税込／保険料込）
67,500円を前払いしていただき、残額67,500円が分割払いになります。

お支払回数	金 利	合計金額	前払金	残 額	分割払利息	分割支払金合計	毎月の引き落とし金額
4	4.20%	135,000	67,500	67,500	2,836	70,336	17,584

（単位：円／税込）

●教室：映画美学校（渋谷区円山町／基本対面講義、一部講義はオンラインで行います。状況に応じて対面講義をオンラインに変更する場合がございます。詳しくはカリキュラム日程表をご確認ください）。

●申込締切：2021年7月29日（木）20:00まで

●申込方法：オンラインによる申込。映画美学校ホームページよりお申し込みください。

●選考方法：書類選考および講師陣との面接・簡単な実技を行います。申込締切後、面接・実技日程をメールにて事務局から連絡をさせて頂きます（面接と実技は8月上旬に行います。詳細に関しては別紙を参照ください）。面接・実技終了から速やかに合否の結果を郵送でお知らせします。合格者には、受講手続きのご案内を致します。

●受講手続：合格通知を受領後、受講料135,000円（税込／保険料込）を指定の期日までに、指定の銀行口座にお振込下さい。受講料の入金が確認された時点で申込み受付完了となります。
※講義開始に関わらず、申込者の自己都合での解約による受講料の返金は原則お断りいたします。ただし、疾病等、本校がやむを得ないと認める事由についてはご相談に応じます（詳しくは映画美学校約款をご参照ください）。

＜申し込みフォーム＞

●お申込み・お問い合わせ
特定非営利活動法人　映画美学校
〒150-0044　東京都渋谷区円山町 1-5 KINOHAUS B1F
電話：03-5459-1850　FAX：03-3464-5507
受付時間（月―土）12:00～20:00
HP：http://eigabigakkou.com

映画美学校約款

受講上のご注意

◎講義の写真撮影、録画、録音はご遠慮ください。

◎持病のある方、あるいは体調不良になられた方は事務局にご相談下さい。

◎講義の際に使われる各種の機材・備品などの取り扱いは十分に注意して下さい。機材や備品を大切にすることは映画づくりの基本です。

◎館内での私物の管理は、各自で責任を持って行って下さい。賠償の責は負いかねます。また、受講生本人の不注意による事故や物的損害に対しても同様です。

◎当校は現役の映画人に講師をお願いしておりますので、講師のご都合またはやむを得ぬ事由により、講師やカリキュラムを変更することがあります。また、交通機関の混乱や、天災地変などやむを得ない事情で、カリキュラムを変更する事があります。

◎各コースのカリキュラムは、講師陣により日々検討を重ねております。そのため、要項に記載のカリキュラムが若干変更・修正される可能性もございます。変更・修正の際は理由を説明いたします。

◎急なカリキュラムの変更等、当校より緊急連絡をさせていただくことがございます。ご登録の氏名・住所・連絡先等に変更があった場合は、すみやかに事務局にお知らせ下さい。

◎受講希望者が一定の人数に達しないクラスは、開講を見合わせる場合もあります。

受講取消の扱い

◎いったん納入した受講料は、原則としてご返金できません。各講座の予算は講師陣と事務局が協議して慎重に確定いたしますので、その後のキャンセルはカリキュラムの実現に重大な支障を来します。ただ、病気や転勤など、当校がやむを得ないと認めた場合は、開講日以前であれば下記の計算方法でご返金いたします。その場合、医師による診断書や勤務先の辞令（コピー可）など、受講不可能となった事由を証明する書類をご提出下さい。

受講開始日より起算した返金額

30日前まで：全額の90％

29日前～14日前まで：全額の75％

13日前～7日前まで：全額の50％

6日前～1日前：全額の25％

なお、講義開始後のお申し出は、お受けできません。

安全面について

◎映画の撮影時には、スタッフ、キャストともに目の前のことに集中するので、事故が起こりやすいものです。事務局から配布される注意事項をよく読んで厳守し、撮影にかかわる人たち全員が安全面に配慮することで、絶対に事故を防ぐようにして下さい。将来、講座修了後も、映画を制作し続ける限り、一番大切なことです。なお、注意事項に書かれていないことは、遠慮なく事務局にご相談下さい。

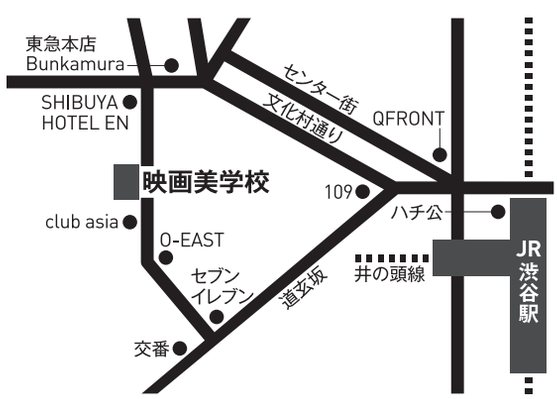
◎非常口、避難通路などは事前にご確認下さい。災害が発生した場合は、必ず係員の指示に従って行動して下さい。

著作権について

◎本校のカリキュラムの一環として制作された画像、動画、サウンド等の著作権は基本的に映画美学校に帰属します。従って、それらの全部又は一部および、授業風景等を録画・録音したものの全部又は一部を、本校の広報・業績・紹介目的のため、任意かつ無償で利用することがあります。その際、著作者の氏名の表示を省略することもあります。諸般の事情により支障のある方は、開講してなるべく早い時期に事務局にご相談下さい。なお、利用にあたっては、第三者の著作権、商標、名誉、信用、肖像権その他の権利を侵害しないように細心の注意を払います。

お申込み・お問合せ

特定非営利活動法人 **映画美学校**

〒150-0044
東京都渋谷区円山町1-5 KINOHAUS B1F
（渋谷・文化村前〈松濤郵便局前〉交差点左折）

TEL 03-5459-1850　FAX 03-3464-5507
http://www.eigabigakkou.com
受付時間（月～土）12:00～20:00